

文化情報誌

たわわ

AUTUMN
No.88

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



"Rising Sun" 平塚海岸 2013年 撮影

U-ske×Hiratsuka

フォトグラファー U-SKE(鈴木雄介)さん



波乗りと写真と

波乗りを始めたのは中学生の時、父親の影響でした。高校へ通う頃にははっきりのめりこみ、サーフィンの聖地、ハワイオアフ島のノースショアという場所を訪れた19歳の時に、その美しい自然と強大な波に魅了されました。そして世界中を旅するサーフィンフォトグラファーに憧れ、カメラを持ちました。

偉大な自然を“写心”に

大海原で何かを感じていることが『宇宙とのコネクト』だと思われることがあるんです。陽が昇る前に海へ入り、広がる空を見上げる。通り過ぎる鳥とともにゆっくりと波を待ち、刻々と変わる状況の中、波を掴む。全身で波動を感じ、朝陽と水に包まれる。

サーフィンは海という自然のフィールドの中でやる遊び。そのおかげで自然の素晴らしさをたくさん教えてもらっています。同じ場所に行っても海や空、自然はいつも違う姿を見せてくれます。もちろん同じ波も二度と来ません。

海での撮影は、足ヒレを付けて片手にカメラを持ち、泳いで大きな波の中へと入るといって過酷なものです。でもときにしびきや光の反射によって自分のイメージを超える瞬間と出逢い、自然のフィルターがかかったような写真が撮れることがあるんです。そんな瞬間は自然と共鳴した気分というか、とにかく感動と自然への感謝の気持ちに包まれます。その感覚が最高で、また海の中へ撮影にいきたくって思うんです。



変わりゆく日本

フォトグラファーとして活動するようになってからは、冬のハワイでの長期滞在をはじめ、世界有数のサーフポイントや日本各地を著名なプロサーファーたちと旅し、作品を手がけてきました。2011年の東日本大震災の時も撮影でハワイにいました。

何度も訪れた東北の状況、そして多くの友人がいる福島原発事故のことは現地のTVで知ったんです。すぐには帰国することもできず、とても寂しい気持ちになりました。あの海へはもう行けないのか、福島で楽しんでいた仲間たちはどうしているんだろう、と。そして、地元の家だってこの先どうなるかわからないとも思いました。日本への想いを再認識し、日本

を撮りたい、まずは生まれ育った平塚の素晴らしい海を自分なりの視点で残していきたいって心から思ったんです。

Home

平塚の海にも素晴らしい自然を感じられる景色や時間がたくさんあるんです。よく朝焼けとともに海を見に行きますが、朝陽が綺麗な日、空の色が凄い日、水が綺麗な日もある。富士山、湘南平へと沈む夕陽も大好きです。海の中から見る波と富士山は絶景です。葛飾北斎の絵のような現実の景色と遭遇すると、偉大な自然から与えられる感動は今も昔も変わらないのでは、と改めて思われます。そんな地元の海で過ごす時間は最高。心から癒されます。平塚はサーフィンが盛んな歴史も長く、日本を代表するサーファーたちが昔も今もたくさんいるし、多くの人たちが海との生活を楽んでいます。

でも、海が近いのにアクセス(横断歩道や駐車場の問題)が不便な現状もあります。茅ヶ崎市のように海沿いを走れるサイクリングロードがなかったり、せっかくの相模湾が一望できるスポットにとても行きにくかったり。最近では国道134号の四車線工事が進み、花水川には新しい橋もできています。どんどん景色は変わり、新しい道路によって便利になる一方、川の流れや海につく砂の状況など自然の変化も出てきました。

毎日のように海へ行っていると日々の変化、長期的な変化にも気づきます。個人的な意見ですが、やっぱりできる限り自然を大切にしていって欲しいです。もっと多くの人が平塚の海の魅力を知り、自然や環境を大事にし、海とともに生活しやすい街になればいいな、とも思います。だからこそ、日頃感じているその魅力を自分にしか撮れない作品として残し伝えていくこともしていきたいんです。今回たわわに掲載している写真もすべて平塚海岸で撮影したものです。



これから…

これまで多くの人々に出逢い、支えられて大好きな写真を撮り続けてくることができたことに、すごく感謝しています。これからも毎日いろいろな刺激を受け、その気持ちを写心にしていきたいと思っています。いつか泳いで撮影はできなくなるし、今できることを精一杯やって作品を残したいです。

理想は、最終的には自分が好きで撮り続けていること、創り上げていくものがメッセージとなり、今までたくさんの感動と夢を与えてくれた海、自然、地球への恩返しができるくらいなと思います。そして人々の心を動かせるような本物の“写心家”になりたいです。(2013年10月 photographer U-SKE)

プロフィール

フォトグラファー U-SKEさん

1976年4月生まれ平塚市出身。19歳のときに訪れたハワイオアフ島ノースショアの波に魅せられカメラを持つ。足ひれとカメラ片手に波の中へと泳ぎ、日本各地、世界のサーフポイントを訪れるフォトグラファー、ジャーナリストとして活動。2009年にはstudio voice/日本の写真家100人に選出される。その独自の視点で撮られた作品たちは個展やアートショー、多くの雑誌などで発表されている。

現在は生まれ育った湘南の海を精力的に撮影。平塚市松風町に自身のギャラリーを構え、海との生活の中で作品を創作している。ホームページ www.u-ske.jp



ひらつか音楽のおくりもの 八幡山の洋館から

八幡山公園に建つ洋館「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」を御存知ですか？この会場を活用し、記念館企画委員のメンバーが運営する様々なイベントが行われています。そのひとつが、「ひらつか音楽のおくりもの」です。プロ、アマチュア問わず、平塚市や近隣の演奏家が出演し、2日間に渡りクラシックをはじめ幅広いジャンルの演奏を無料で聴くことができるコンサートです。

平成23年の6月に始まり、その後、年に2回のペースで継続されています。直近の実施では500名近い来館者がありました。現役の音大生や、国内外での演奏活動実績のある方なども出演しており、評判が伝わって楽

しみにしている方も増えてきています。

また、洋館の雰囲気も出演者に好評で、最近では抽選になるほど多数の応募があります。あたたかみ溢れる古い洋館で奏でられる音楽は、忙しい日常から少し離れ、心安らくものに違いありません。八幡山の洋館では、このほかにも「クリスマスフェスタ」（平成25年12月7日（土）・8日（日））や、洋館を題材とした「絵画・写真展」（平成26年3月）の開催を予定しています。ぜひ会場へ足をお運びください。

お問い合わせ：0463-35-8124 社会教育課



「地元」「ご近所」から教わる日本文化

薛 嘉雲（セツ・ジャウン）さん

16年前に台湾から日本へ移り住んだ薛（せつ）さんは、一緒に来日した御主人と、二人のお子さんと平塚で暮らしています。お子さんが中学へ通い始め自分の時間を使えるようになったので、北京語の通訳を始め、現在はインタナショナルナバサなどで活躍しています。

薛さんは子育てをする中で、日本の習慣がわからないため苦労したことが多いと言います。「台湾では冷めたものを食べる習慣がないんです。子どもにお弁当を持たせなければいけなくなったとき、どうすればいいかわからなくて。ささいなことかもしれませんが、一つ一つ勉強して何とかやってきました。」

日本での子育てで何よりすばらしいと感じたのは、自治会など地域の結びつきの中で育てていくことだそうです。

「台湾にはそういうものはなかったですね。季節ごとの行事を一緒にやって、お祭りや盆踊り、七夕などの日本の伝統を、私も一緒に体験できて本当に楽しかった。親が

役員をやらないといけないとか、そういったこともとても大変だけど勉強になりました。そして行事だけでなく、災害時の対応などについても地域が一緒になって真剣に考えているところもすごいと思いました。」

子育てを通じて経験したことを役立て、通訳として活動するだけでなく、今後は生活面でのアドバイスも行っていきたいと薛さんはいいます。「外国人にとって地域に溶け込むことは難しいけれど、勉強しながら、そして、自国の文化を伝えることも忘れずにがんばっていかれたらと思います。」



向原遺跡から大山を望む

『史跡の風景』 第7回 大磯丘陵の急所 ～向原遺跡～



向原遺跡（むかいはいせき）と言っても耳慣れないかもしれませんが、湘南ひらつかパークゴルフ場と聞けばピンと来る方も多いと思います。上吉沢の標高68～88mの洪積台地上に立地する向原遺跡は縄文時代から平安時代に至る各時代の資料を埋蔵する大きな遺跡です。

最初の発掘調査は神奈川県企業庁水道局による配水池建設に伴って、昭和52年（1977）5月に始まりました。当時神奈川県下の人口は急激に増加しており、平塚市にも安定して上水を供給するために高所からの自然流下による送水基地が必要とされたからです。発掘調査は昭和56年3月まで、延べ38か月にわたって実施され、49,000㎡が調査されました。



丹沢の景観（北側）

調査の結果、弥生時代から古墳時代の竪穴住居址が56軒、奈良・平安時代では184軒の竪穴住居址と161軒の掘立柱建物址が検出され、古代の拠点的な集落であることが判明しました。また、出土した縄文土器片はその7割以上を縄文時代早期（約8000年～1万年前）のものが占めるという、古い遺跡であることもわかったのです。

向原遺跡がある高台は大磯丘陵の北端に位置し、北側は東に流れる金目川を挟んで大山をはじめ丹沢の山々を見渡すことができます。丹沢南麓には金目地区の住宅地と水田が広がり、正面には東海大学の校舎が並び立っています。大学の構内には、こちらも大きな遺跡である王子ノ台遺跡があります。一方、南側に目を転じると谷合の道路と集落を隔てて、標高219m



大磯丘陵の景観（南側）

の鷹取山を中心とした大磯丘陵の緑が広がります。

さて、遺跡の南側を流れる不動川は緩やかに南に向かい、大磯町の国府本郷で相模湾にそそいでいます。遺跡がある高台は、北側の金目川水系と南側の不動川水系との分水嶺にあたるわけです。そして南側の道は、東に向かえば湘南砂丘域や大磯の海岸に達し、西に向かえば秦野盆地や大磯丘陵西部へと通じる重要な交通路なのです。ここ向原遺跡は、一見すると丘陵地の中にある見晴らしの良い場所としか感じられませんが、地理的には物流と情報の拠点として高い機能を有する場所だったのです。



貯水池上の運動施設

遺跡には現在野球場、多目的広場、パークゴルフ場が整備され、市民に憩いと健康を与えてくれます。時代は移り、その目的は変化していきますが、人々が集う場所には時代を超えた運命があるのかもしれない。



湘南ひらつかパークゴルフ場

平塚市文化振興基金にご協力を !!

平塚市文化振興基金は子どもたちの心を豊かにする文化事業に活用されています。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いいたします。

(電話 0463-32-2235)

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方

H25. 8月から10月（敬称略）

■ 湘南新舞踊協会（H25.10. 8）



平塚市文化振興基金を活用して、小学校へ良い音楽を届けるアウトリーチ事業を実施しています。平成24年度までに8校、1000人以上の子どもたちが、音楽を間近で楽しむひとときを体験しました。

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成25年(2013年)11月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>